

平成21年度 府立東百舌鳥学校 学校評価報告書

府立 東百舌鳥高等学校
校長 西村 博文

1 めざす学校像

「未来へ翔る」をキャッチフレーズとして、自分の進路を自己決定できる力を身につけるとともに、社会の形成者としての責任を自覚した自律的な人間を育成する。
そのため、きめ細かな生徒指導と進路指導につとめ、生徒が校訓である「**「自他敬愛」**の心と日本国民としての自覚を持ち、自分の人生を切り拓く力を伸ばす学校づくりをめざす。

2 本年度の教育目標

- 第一希望の進路実現
- 魅力ある授業づくり
- きめ細かな生徒指導と進路指導
- 開かれた学校づくり
- 学校行事・部活動の活性化
- 信頼される学校づくり
- 人権尊重教育の推進

3 本年度の取組み計画及び自己評価

領域	具体的な取組み計画 (成果指標) [平成 21年 4月 記入]	取組み状況の自己評価	今後進めたい取組
(1) 学習指導等	①特色ある学校づくりに向けた教育課程の構築の取組み ＊ トータルプラン委員会、カリキュラム委員会による専門コース設置の研究 ＊ 2年次より理系進学者向け「数学B」選択の実施 ②放課後や長期休業中の補習・補講の実施 ③図書室利用者数の増加と読書活動の推進 ④魅力ある授業の創造 ＊ 個別指導やグループ別指導を取り入れた選択科目授業の実施 ＊ 新3年生向け「総合情報」「環境科学」の開講予定 ＊ 「オーラルコミュニケーションI」における少人数展開授業およびALTとのチームティーチング授業の実施 ＊ 「情報A」におけるチームティーチング授業の実施 ⑤平和教育 ・修学旅行に向けての2学年LHRにおける平和学習(6/11) ⑥国際理解教育 ・JAICA 隊員の体験から国際貢献の意味を学ぶ(2年1/21) ・オーストラリア(パース)における語学研修(7/23～8/5) ⑦障害者とともに生きる共生の学び(3年11/12と1年11/19)	①*専門コース導入については「情報ビジュアルデザインコース」「医療看護系進学コース」等のコース設定を決め具体化のためにコース制委員会を設置した。導入実現に向けて具体的なカリキュラム等の検討を始めている。 ＊数Bの選択においては平成22年度より選択を開始する。希望調査では約40名の生徒が希望した。 ②放課後、5主要教科の時間割を作成し、成績不振者指導のための補習を行った。これは1・2学期でのべ37時間であった。進学講習は、1年次より英数国を放課後及び夏期講習に実施した。3年ではこれに理社を含めた。継続して参加した生徒は着実に実力を伸ばした。 ③図書館前廊下のディスプレイと展示方法を工夫し、貸し出し数の増加につなげた。生徒の本のニーズを考え、年2回の選書購入ツアーを実施した。図書館通信・ブックリストの配布を行った。HPによる新着本のPRを行った。国語総合の授業で本のプレゼンテーションを取り入れた。あわせて読書カード、読書タイムカードの提出を課題とし読書の習慣づけを行った。 ④総合情報、情報Aではチームティーチングを行い、効果を上げた。また、オーラルコミュニケーションIでは少人数展開授業を行い、効果を上げている。魅力ある授業を作りを進めるために積極的に公開授業を行った。ICT研究公開授業(9/16 10/23 1/26 2/3)その他、公開研究授業を数回実施した。 ⑤大城盛俊氏の沖縄戦についての講演を聞くことで沖縄の美しい島という印象に留まらず、悲しい歴史の島、平和を希求し生きている人々の思いに触れ、平和の尊さを学習した。 ⑥2年生の全クラスのLHRにおいてJAICA 隊員の方々からお話を伺う。活動についての事前学習を行い、国際貢献の意味をあらかじめ学んだ上で実施した。国際社会における日本の立ち位置を学び、どのように生きるかを学ばせた。語学研修は新型インフルエンザのため中止。次年度には同場所で開催予定。 ⑦手話講座を通じて障害のある人とともに生きていく姿勢を身につけさせた。	①コース制の実現に向けて、他校への見学、カリキュラムの研究を行い、本校にあったコース制を提案する。 ②来年度も継続していきたい。 ③保護者、子育てサポートルームの活動への協力(読み聞かせ)、図書館内の大型テレビを利用したビデオ鑑賞会。HPの充実。 ④継続していきたい。 ⑤⑥⑦今後も継続的に取り組みたい。また、厳しい社会に出るうえで、生きていく上での権利、働いていく上での権利について学習する。
(2) 生徒指導等	①生徒指導体制の充実 ＊ 生徒指導室の教職員常駐体制 ②規律ある学校生活を送らせる指導 ＊ 遅刻指導の拡充 ・朝の立ち番、遅刻常習者への毎月の学年指導 ・昼の巡回指導と立ち番 ＊ 携帯電話のマナー指導 ・啓発と預かり指導 ③教育相談体制の拡充 ＊ SCSVの活用 ④体育祭の縦割り団対抗形式、生徒による団長・演技長・ボード長を中心とした運営 ⑤部活動の活性化 ＊ 終業式等で部活動発表の場の提供 ＊ リーダーズ・アセンブリーの実施	① 生指室に常駐することにより、生徒への対応も早くなった。また、遅刻者への対話による指導も出来ている。 ② 多くの教員が朝の立ち番を行うことにより、生徒の実態もつかめ、生徒もその様子を見て教室に急ぐ様になった。授業遅刻は激減した。携帯のマナー指導は一定の効果も上げている。 ③ 今年はSCSVのコーディネーター校としての役割もあり、連携は密になった。教師との面接だけでなく、本人、保護者との面談も行い、専門機関に繋げることも多くなった。本人、保護者、教職員への支援も確実に出来ている。 ④ 3年が中心となる縦割りの活動が定着し、1,2年をまとめて成功させることができた。応援も組織的にいけるようになったが、一般の生徒も協力してすばらしいものになった。体育祭満足度アップH20・・・良(60%)同じ(16%)悪い(12%)→H21・・・良(74%)同じ(20%)悪い(6%) ⑤ ＊インフルエンザの影響で式の前後に授業が入り時間が十分取れなかった。 ＊リーダーズアセンブリーについては、今年度は3回実施できた。キャプテンとしての意識の向上が見られ効果があった。 ＊経済的な援助として、後援会からの支援額を増やした。	②立ち番の教員による「あいさつ」指導を行い、活気ある礼儀正しい雰囲気を作りたい。プレザ着用も推進する。遅刻指導を学校全体で実施しているが、継続して指導を受ける生徒が見られる。生徒に遅刻が迷惑な行為であることを自覚させたい。 ③教育相談委員会の定例化。人権推進委員会との連携。相談を行う上での生活情報の共有化。迅速に対応するためのシステム作り。 ④一般生徒への働きかけを強化。継続的な指導を行う。 ⑤生徒発表の場を増やすこととリーダーズアセンブリーは今後も継続する。
(3) 学校運営等	①情報発信委員会を中心とした情報発信 ＊ 中学生対象の体験入学、学校説明会 ＊ 教員による中学校訪問 ＊ ホームページのリニューアルと積極的更新 ②「子育てサポートルーム」との連携 ＊ 保育体験 保育・幼児教育進学希望者を中心に、夏休みの保育体験参加者を募る。4日間の保育体験・スタッフの方との反省会などを通し、適性や、志望の確認ができる。希望者には、2学期以降も継続して、週1回の保育体験が可能である。 ＊ 家庭科授業での活用として1年「家庭科総合」保育(2学期)の授業に子育てルーム利用者が参加し、グループ学習を行う。 ③小中学生対象の土曜講座 小学生向けのロボット講座、中学校と高等学校の連携によるロボット講座(SPP) ④学校評価を活用したPDCAサイクルの充実	①* 第1回オープンスクールでは約200名、体験入学でも約200名の参加があった。12月にも第2回オープンスクールを追加実施した。今年度は在校生により施設内や解説をしてもらった。このことは中学生には親しみが持てたようで、好評であった。 ＊ 本校の取り組みを伝えることができた。また、本校が取り組むべき課題が明確になり、TP(トータルプラン)委員会での協議内容にもそのことが反映されていた。 ＊ 担当者の小まめな更新で1日平均220人の訪問者がありH21.4.30より合計でアクセス数は6万人を越えている。 ②*6月に参加希望を募り1年11名、2年7名、3年15名の計33名の生徒が参加した。急な病気の欠席を除き責任を持って参加した。実体験を通じ保育に関する知識を得て、進路を考える上で非常に有効であった。 ＊11月に1年生1クラスの実習を行った。 ③小学生向けのロボット講座は8回実施し、のべ120名の参加があった。SPPによるロボット講座は6回実施し、4中学2高校ののべ60名の参加があり、地域に開かれた学校の役割を果たしている。 ④各分掌、各学年で自己診断結果を踏まえ、分析を行い課題を確認した。来年度に生かす予定である。	②*今年度は1年生で2名の男子生徒が参加した。次年度も男子生徒への参加の呼びかけを積極的に行いたい。 ＊1年生全クラスが実習できる様を考えていきたい。 ③地域住民や小中学生対象の土曜講座。

4 学校教育自己診断における、結果と分析

[平成22年11月実施分]

* 実施対象 (教職員 ・ 児童 (生徒) ・ 保護者 ・ その他)
 ・ 10月末配布、11月に回収した。回収率は生徒94%、保護者44%、教職員94%。全体的に評価は向上したが、特に学校の特色、体育の部、文化の部の工夫等は大幅に評価はアップした。
 ・ 結果を分析し、課題については分掌、学年ごとに検討した。全生徒と保護者に結果とその分析、今後の対策を2月下旬に配布した。
 ・ まだまだ学校の各種事業内容が保護者の方々に伝わっていないことが分かった。今後より一層、学校情報の発信の充実に努める必要がある。
 ・ 学校協議会から：結果を分析すると、「特色作りについて」チーム東百舌鳥としての形が求められるとのこと。一丸となるにはincentive(目標を達成するための刺激)の付与が必要である。「授業作り」の観点からは、子育てサポートルームに全クラスがかかわったりすることも必要。教職員のベクトルを合わせながら取り組んでほしいとのご意見をいただいた。

5 学校協議会における提言内容

* 実施日 第1回(7月9日)第2回(12月3日)第3回(3月2日)
 * 委員構成 小川雅和(東光学園事務長)、小田昌宏(本校PTA会長)、葛城信一(本校同窓会長)、加藤正彦(帝塚山学院大学高大連携室長)、黒川正三(堺市立東百舌鳥中学校校長)、山東 功(大阪府立大学人間社会学部言語文化学科准教授)、森山昌子(NPO法人子育てネットみちくさ代表)本校学校長他11名
 * 内容
 ・ 地域との関係をより良くしていくための取り組みについて、例えば公園、道路や植え込みの清掃を地域活動に合わせて継続的に行って欲しい。また、学校の取り組みを堺市の広報や地域の回覧に掲載してもらうこともよい。
 ・ 「子育てサポートルーム」を授業に取り込むなどの取り組みをより一層進めること。
 ・ 部活動の取り組み(吹奏楽等)に生かすことも可能。
 ・ 本校の特色作りのため、「入口」の売り「出口」の売りを考えること。
 ・ より一層、学校HPの内容の充実を行うこと。授業の中でWEBページを作成させて発信するものもよい。